

続・さいたまの長屋門

過日『江戸の記憶を訪ねる・さいたまの長屋門』を出版した書籍は、さいたま市に点在する長屋門がどこに、どんな形で、何棟あるか、を調査し、その中で所有者の了解を得た建物を実測調査をしました。その結果各地の棟数や形式を分類し一覧表にまとめました。

また建築的観点から伝統構法であることを確認し、その構造の木組みの特徴を考察し種類分けをしました。

さらに各建物が似通った姿をしていることから建物のプロポーションについて古来の「木割り」にのっとり造られているのか、実測値を用いて木割値と比較しました。

この書籍をまとめる前に、実測調査をした資料を分析した結果を、日本民俗建築学会発行の機関紙「民俗建築」に発表しました。その内容を、『さいたまの長屋門』としてまとめ出版しました。

しかしさいたま市に何故多くの長屋門が在るのかについては、歴史的・社会的・経済学などの面から考察しないと解明できそうもありません。この件は機会をみて検討してい見たいと思っています。

☆

この続編では先の『さいたまの長屋門』に引き続き、前回取り残した長屋門の歴史や建物の各部の詳細や構造の違いからの新旧の建物についてなど、そして長屋門の関してアラカルト的に記述して見たいと思っています。

さて、長屋門という建物が幕府によって明確な形式に設定されたのは、大名屋敷の表門に端を發して展開してきています。しかし大名屋敷の表門が建設される前には、平安時代の貴族屋敷の門が基になり發展してきたようです。

その門の歴史的变化については後程ふれますが、ここでは大名屋敷の表門がどのようであった、から始めます。

◇歴史の中の長屋門

◆江戸前期・大名屋敷の表門

江戸地に徳川時代が始まると江戸城を中心として、各藩300諸侯と旗本8万余旗の屋敷が建ち並び、各大名や旗本が競って屋敷の表門を豪華に飾り立てた造りとなっていたそうです。

大名の表門は、現在国立博物館にある旧因州池田家江戸屋の表門は壮大な門で、造

りは格式の高い建物です。

この他表門形式の建物は都内にも残存していますが、江戸中期以降の建物で前期時代の建物は、明暦3年正月、振袖火事の名で有名ですが、江戸一円を焦土とし、華麗な表門は地上に姿を留めたのは半世紀にも満たなかったのです。残念ながらそれらの表門は現在残っていないのです。

長屋門の調査資料と関連すると思われる大名屋敷や旗本の表門はどんな造りか気になったので、その系統の本を探しました。「江戸城と大名屋敷※」を図書館より借りページをめつくとところ「江戸図屏風」に見る江戸城と大名屋敷が目にとまりました。この屏風図で豪華絢爛な表門が見て取れます。

井伊掃部



加賀藩前田家

◆井伊掃部頭上屋敷

表門の前に格子の柵があり、町民が行き来している様子が描かれています。柵の一部が開いて、中に入ると表門の右側にある潜り戸が開いているのがみとれます。

表門は切妻の屋根で妻の部材に金金物が張られ、正面も細工がされている様子が見えます。

◆加賀藩前田家下屋敷

東京大学の地にあった。当時は下屋敷だったが後に上屋敷となった。楼門の構え。武士たちがそぞろ歩きしているようです。

広島家



◆広島家松平安芸守仙台藩伊達家

楼門の構えで屋根は入母屋造り。1・2階の意匠が凝っています。



◆福井藩松平家屋敷

家康の孫である越前福井藩主・松平忠昌の上屋敷。將軍を迎える御成門は、華麗な彫刻で裝飾されていました。左が御成門？



松平家

◆仙台藩伊達家「(松平陸奥守)」

この絵には、二つの門があり、上の方の華は御成門、下の方は2階建ての楼門があります。上の方の門の前には、女性たちが御成門に見入っている様子が描かれています。



伊達家



まるでテーマパークのよう

◆左から尾張藩徳川家・水戸徳川家
・紀伊藩徳川家の御三家は城内
の吹上にあり、豪華絢爛。三家
とも唐破風で瓦葺きの屋根とし
た表門です。



※ 歴史 REAL 編集部編 洋泉社 (下記の写真
および一部文章をお借りしました)